緊急シンポ

能登半島地震から考える
原発のこれから

１月１日に発生した能登半島地震では、海岸線が最大４メートルも隆起するなど、これまでの知見を覆すような規模・内容の地震となった。この地震により、北陸電力志賀原子力発電所では、一部の系統の外部電源が失われるなど、危機一髪とも言える状況だった。一方、今回の震源地とされ、最も深刻な被害に見舞われた奥能登の珠洲は、かつて関西電力と中部電力の原発計画があったが、住民たちの粘り強い反対運動もあって計画は凍結された。もし珠洲で原発が稼働していたら、どのような事態を招いていたのか。アーカイブ映像も交えながら、これら２つの原発計画と地震後の事態を可視化し、地震国・日本における原発について、今後のアジェンダ（議題）設定を図る。

第１部

【特別上映】
「原発立地はこうして進む 奥能登・土地攻防戦」
（NHK／1990年／50分）

問題提起
・**七沢 潔**（フリージャーナリスト／中央大学客員教授）

現地報告
・**北野 進**（元石川県議会議員*オンライン参加）

第２部

【トークセッション】
パネリスト
・**添田 孝史**（フリーライター）
・**井戸 謙一**（弁護士*オンライン参加）
・**七沢 潔**（フリージャーナリスト／中央大学客員教授）

司会：白石 草（OurPlanet-TV）

▼お申込み▼　https://notosympo0128.peatix.com

1/28（日）14：00～17：30

専修大学神田キャンパス10号館6階10062教室
（東京都千代田区神田神保町３丁目４－４）

●定員：180名　●資料代：1,000円＋カンパ　※学生無料（要申し込み）

共催：OurPlanet-TV、専修大学ジャーナリズム学科、早稲田大学GEC（ジャーナリズムとメディア表現）
後援：日本ペンクラブ、中央大学法学部映像ジャーナリズムゼミ

特別上映

ドキュメンタリー'90
原発立地はこうして進む　奥能登・土地攻防戦

能登半島突端の石川県珠洲市。財政難を打開するために1980年代に原発の誘致を始めた。関西電力は人口250人の高屋地区に担当者を派遣し、用地買収のための借地権交渉を進めてきた。発電所の用地をめぐる住民と電力会社側との攻防を、それぞれの陣営の裏側まで描きだした問題作。（1990年5月23日放送）「地方の時代」映像祭（1990年優秀賞）、日本ジャーナリスト会議（ＪＣＪ）賞（1990年奨励賞）。

登壇者

七沢 潔
（ジャーナリスト／中央大学法学部客員教授）
元NHKディレクター。沖縄、原発、戦争に関するドキュメンタリー番組を制作。著書に『原発事故を問う～チェルノブイリから、もんじゅへ』（岩波新書、1996年）、『東海村臨界事故への道～払われなかった安全コスト』（岩波書店、2005年）、『テレビと原発報道の60年』（彩流社、2016年）など。

北野 進
（珠洲市在住／志賀原発廃炉に！訴訟原告団長）
珠洲原発反対運動に関わり31歳で石川県議に三期務め、その後、石川県平和運動センターの事務局で平和運動に携わる。2011年4月より珠洲市議を二期務め、「志賀原発を廃炉に！訴訟」原告団長も務める。

添田 孝史
（科学ジャーナリスト）
元朝日新聞記者。原発と地震について取材を続け、2011年５月にフリーに。福島原発事故の国会事故調査委員会で協力調査員として津波分野の調査を担当。著書に『原発と大津波 警告を葬った人々』（岩波新書）「東電原発事故 10年で明らかになったこと」（平凡社新書）などがある。

井戸 謙一
（弁護士／元裁判官）
1979年に裁判官に任用。裁判長として、2006年に志賀原子力発電所2号原子炉運転差止請求事件で運転の差し止め判決を下す。現在、多くの原発差し止め訴訟の弁護団に参加している。

白石 草
（ジャーナリスト／OurPlanet-TV代表）
放送局勤務を経て、OurPlanet-TVを設立。311後は、原発事故に関する取材を重ね、『徹底検証！テレビは原発事故をどう報道したか』『映像ドキュメント・東電テレビ会議49時間の記録』などを制作。著書に『ルポ・チェルノブイリ28年目の子どもたち』（岩波ブックレット）などがある。